

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2022年1月18日

トーアス株式会社

変化と堅実のタッグで永続企業へ

アスパラガス缶詰加工での創業から幾度もの危機を乗り越え、コア事業を確立したトーアス株式会社。変化を求める挑戦と、堅実な社員と確かな技術力を武器に会社のバージョンアップをし続ける代表取締役の岡本英次氏に話を聞いた。

Company Data

会社名：トーアス株式会社

代表者：岡本 英次

住所：豊川市大崎町宮の坪 58

電話：0533-86-5155

URL：<https://www.toasu.co.jp>

紹介金融機関：豊川信用金庫



始まりはアスパラガスから

当社は1955年に愛知県の食品加工業者10社が集まり、アスパラガスを缶詰にして輸出する会社「東洋アスパラガス缶詰株式会社」として創業しました。その後、アスパラガス缶詰加工の技術を軸に、様々な食材の缶詰加工に挑戦し全国を行脚して仕事を受託していました。

「代わりがきく」から「代わりがきかない」会社に

しかし、当社で受託していた仕事の多くは競争の激化に伴い、当初とは違い「他社でも請け負える」ものになっていきました。そのため、当社は強みを生かすため、選択と集中により事業仕分けを行い、医療用食品とドライパック食品の2つの事業に再構築しました。1つ目の医療用食品は、病院で食される流動食であり、噛まなくても飲み込める、あるいは経管で投与できる栄養補給を目的とする食品です。この医療用食品は、少量で高いエネルギーかつバランスのよい栄養が取れるように設計しています。栄養成分の分析には、分析機器

を導入し、分析・研究チームが厳格な品質管理を行うことにより、高品質の製品をお届けしています。

2つ目のドライパック食品は、水戻しの必要がなく、容器を開けてそのまま食べることができ、料理に使い、長期保存が可能です。当社の代表的な素材は大豆やひじきなどで30年を超えるロングセラー商品です。当社で作るドライパック食品のうち、大豆ドライパック缶詰は他社に先駆けて製造を開始し、ドライパックのパイオニアとして認知されています。



当社で行っているこの2つの事業を核として、経営基盤を盤石にしていくことが中期的な目標と考えています。

具体的な目標としては、医療用食品分野について2025年までに売上を現在の45億から60億に伸ばしたいと考えています。すでに顧客である病院や医薬品メーカーとの商談が終わり、新工場を建設し今年から稼働させています。

また当社で培ってきた技術を活用して、販売先や食品メーカーと共同し、一般食品分野の強化を図っていきたいと考えています。

CSVをキーワードに新たな事業に挑戦

医療用食品とドライパック食品以外にも新たな取り組みも始めています。

一つは、2020年4月に社会課題の解決と経済利益活動の両立を目的としたCSV（クリエイティング・シェアード・バリュー）事業部の設立です。当社は、健康寿命に着目していますが、健康で長生きするための秘訣は楽しい食事だと考えています。高齢者にとって必要な栄養を楽しくとることによって、健康寿命を伸ばすことにつなげることができる、社会貢献度の高い事業と位置付けています。

もう一つは、ミカンの農場づくりです。一昔前は、ミカンの缶詰を製造している会社は300社程度ありましたが、生食用ミカンの品種改良に伴いミカン缶詰を製造する際の内果皮剥皮作業の際に歩留まりが悪いなど製造コストが極端にかさむようになり、今は10社程度に激減しています。当社では、歩留まりの良い品種を自社で栽培しミカン生産から缶詰の製造までを一貫して行えば、採算が取れると判断し、事業化を決意しました。知多半島に土地を確保のうえ1万本のミカンの苗木を植える予定です。収穫までに5年かかりますが、収穫が順調なら十分採算はとれると考えています。農場は13ヘクタール程で、地域の休耕地の活用には貢献できればと考えています。

過去の行いが未来につながる、健全永続企業を目指して

私が大事にしているのは、ある新聞記事で読んだ「因果俱時（いんがぐじ）」という言葉です。原因と結果は必ず一致するという仏教の言葉です。つい怠けてしまいがちな自分を戒める言葉でもあります。

今の会社の状態はこれまでの会社の一日一日の活動の結果、つまり過去の蓄積です。逆にこれからどうなりたいかを考えるなら、会社が目指すところに向かって、今日どう行動するか考えなくてはなりません。未来を作るのは、今日の行動の積み重ねでしかないのです。

私は経営者として会社が永続することを目指していますが、ただ生き永らえるのではなく、健全に永続しなくてはならないと考えています。健全な永続のために事業を定期的に見直す、健全な永続のために社員を採用する、そして教育を通じて、時代に合った変化に挑戦するという当社の考えを伝え、そのDNAと共に会社を次代に繋いでいく、それが私の願いです。

